



西前小だより

横浜市立西前小学校

Web: <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/sch/es/nishimae/>



自分のよさ・得意なことが成長に

校長 鳥飼信幸

今年度は、大空スポーツフェスティバル(OSF)になります。全校のみんなが集って行きます。3年ぶりとなるので、子どもたちの安全に関して徹底していきます。開催にあたり、子どもたちのために保護者の皆様にもご理解ご協力をいただきたいと思っております。

学校運営協議会の会長様、地域コーディネーターの方々、西中学校の校長先生が参観されます。ご来賓の皆様、地域の皆様、近隣の幼稚園・保育園の皆様におかれましては、子どもたちの活躍する姿を参観していただきたいのですが、お招きできないことにご理解いただきありがとうございます。

私たち職員が子どもたちに集中できるよう、保護者の参観の誘導やパトロール、受付、片付けなど様々な対応を快く引き受けていただいたPTAの役員・係会のみなさん、子どもたちの活躍を撮影して下さる広報委員会のみなさん、見えないところで、裏方で支えて下さるが方々がたくさんおられます。事前準備から当日、子どもたちのためにありがとうございます。職員は子どもの安全安心な指導のみに徹することができます。改めて、PTAの意義を感じるとともに、ご協力に感謝申し上げます。前号で書いた「よりよい教育には、よりよい大人の姿が大きな力となります。」子どもたちにとって「素敵だな」思われる大人の姿に違いありません。大人が子どもたちへの範を示すこととなります。学校とPTA・保護者が子どもたちのために“**Our Team**”となります。

子どもたちはOSFに向けて練習に励み、今まで以上に自分たちでOSFを創り出すという気持ちが表れています。運動が得意な子、不得意な子も、自分ができる活動に取り組み、自分のよさ・得意なことで個性を発揮しているように感じられます。本校は、行事を子どもたちが創り出しています。与えられたことをやるのではなく、自分たちで創造しているとしています。「運動が苦手だから、OSFはいいや」ではなく、「運動が苦手だけど、自分のよさ・得意なことで自分らしさを発揮できることはなにか」と考えるようにしています。職員も子どもたちと同じ気持ちで準備を進めています。学校教育目標の「自律」「対話」「創造」のひとつ、「創造」を目指しています。

中休みに、体育館では応援団の子どもたちが自分たちで考えた応援の練習を担当の先生といっしょにしています。ピロティでは5・6年生を中心にソーラン節を練習しています。練習の様子を見て踊りたくなったのか、1年生から4年生もソーラン

節の練習に参加している子もいます。「先生も構え」と、リーダーの子に言われ、先生たちもいっしょに練習に参加しています。当日、みなさんといっしょに感動体験ができますと思います。

子どもたちも練習をがんばっているのだから、私も運動を続けています。疲れて「やりたくないなあ」と思うこともしばしば。しかし、子どもたちが中休みに自律して一生懸命練習し、「筋肉痛で階段をあがるのがたいへん」と言いながらも練習をしている姿を見ると、私も弱い心に打ち勝ち、なんとか続けています。子どもたちに「しっかり練習しなさい（本校の先生は言いませんが）」と言うなら、先生である私も取り組まない…。ちなみに、私の運動の成果に気付いてくれた子がいました。

昨年度もこの時季の西前日より、「私は勉強が苦手だけど運動が得意で、その中でも走ることが大得意」ということを書きました。

またラグビー部ネタかと思われるかもしれませんが、おつきあいください。

私が高校1年の時、50メートルを5秒8で走りました。ラグビー部では、当然一番速いと思っていました。タックルのない練習では、いつも相手を抜き去っていました。よく考えると、練習ではすごいのに、試合になるとまったく歯が立たないことになります。そのことについては、タックルなどコンタクトプレーがある本格的な試合をしたことがなかったので、小さなことで優越感に浸っていました。なんのために練習し、チームのために自分のよさを発揮できるかなど考えていませんでした。そこに現れたのが、5秒6で走る先輩です。

いつも私の対面になり、私を抜き去っていくのです。一度抜かれると、追いかけても追いつかない。ラグビーは直線で走るだけでは、相手を抜けません。体のどこか一部をつかまれば動きを止められます。抜いても、走っている足のかかとをたたかただけでバランスを崩して倒れてしまいます。だから、左右に動くステップという技術をつかって、相手の小さな動きを見抜いて抜き去っていきます。先輩は私が瞬きをした瞬間、私の前から消えるのです。すでに私の背後にいました。初めての体験でした。

先輩は、「私の速く走ることでしか考えていない価値観」、「走ることで相手を見下す考え」、「なんのために練習しているのか、チームのための練習ではなく自分の優越感のために練習している心」、「疲れて勉強できないのはラグビーのせいにしていく気持ち」など、自分中心の狭い心を見透かしていたのでしょう。

練習中、先輩は私に何も言いませんでした。ただ、練習する姿で私に厳しさを伝えていたと思います。それがわかるには、ずいぶん時間がかかりました。鈍感な私です。だから大きなケガをすることになります。それも先輩は感じていたと思います。

「人は他者に諭されたり、叱られたりして自分の思い込みを正されて、初めて妥当な哲学的な意見をもてる。それができ

ずに見たいものだけ見る、自分の都合のよいことだけ取り入れる人がたどりつくのが、『他責化』と『他罰化』、『自分の不幸は〇〇のせい』と思ひ込み、〇〇を攻撃し『ショボイ』自分を補完する。」（参考文献：朝日新聞 東京都立大学 宮台真司）

私の高校時代、まさしく宮台真司教授の言葉通りでした。

ちなみに、改心しない私は、過去の西前小だより（ホームページに掲載）にあるように、ラグビー部で心身ともに鍛えられることとなります。

私は自分をふりかえることができるまで時間はかかりましたが、走ることが、こんなにも自分の心を成長させることができたことにつながるなんて思ってもいませんでした。自分のよさ・得意なことが、負の自分から成長させることにつながるひとつの例です。

子どもたちにとって、OSF では自分のよさ・自分の得意なことで、自分らしさを発揮できるチャンスと同時に、私のように上には上がいて、自分の思い込みを正してくれる友達がいるかもしれません。OSFに限らず、普段の授業でも感じる事ができるはずで、授業を通して、資質能力を伸ばす授業をしています。

これは、私たち大人でも同じことが言えるのではないのでしょうか。大人になっても自分の思い込みを正しく導いてくれ、他者をリスペクト（尊敬）し、自分を成長させてくれる仲間がいるのではないのでしょうか。

この関係は、保護者と学校（先生）との関係にもつながります。子どもたちは、家でみせる顔と学校でみせる顔が異なる場合があります。だから子どもなのです。その時に、子どものために、保護者と学校（先生）が上記を意識した対話が大切です。なぜなら、「子どものために」と思う気持ちは保護者も学校（先生）も同じだからです。子ども第一に、お互いが尊敬し合ってこそ、子どもたちの様々な問題を解決に導くことができます。

OSF を通して、子どもも大人も自分のよさ・得意なことを生かし、みなさんとともに「子どもたちが育つ学校」にしていきましょう。

高校の時の先輩のように、口だけではなく行動で示す大人であるよう、私も努めてまいります。

学校ホームページへのアクセスはこちらから →

